

インフラからみる社会

神戸大学 小池淳司

「このまま行ったら『日本』はなくなって
しまうのではないかという感を日増しに深
くする。日本はなくなって、その代りに、
無機的な、からっぽな、ニュートラルな、
中間色の、富裕な、抜け目がない、ある経
済的大国が極東の一角に残るのであろう」

三島由紀夫

**Design isn't a feeling or a skill, but a valid avenue
for expressing one's viewpoint and thoughts.**

(by Eiko ISHIOKA)

多様性の養成と統合性の養成

個人での購入の場合

「なぜ、ひとは**物**を買うのか？」



月額：5,000円

それは、スマホを買うと
一か月5,000円以上 うれしいから

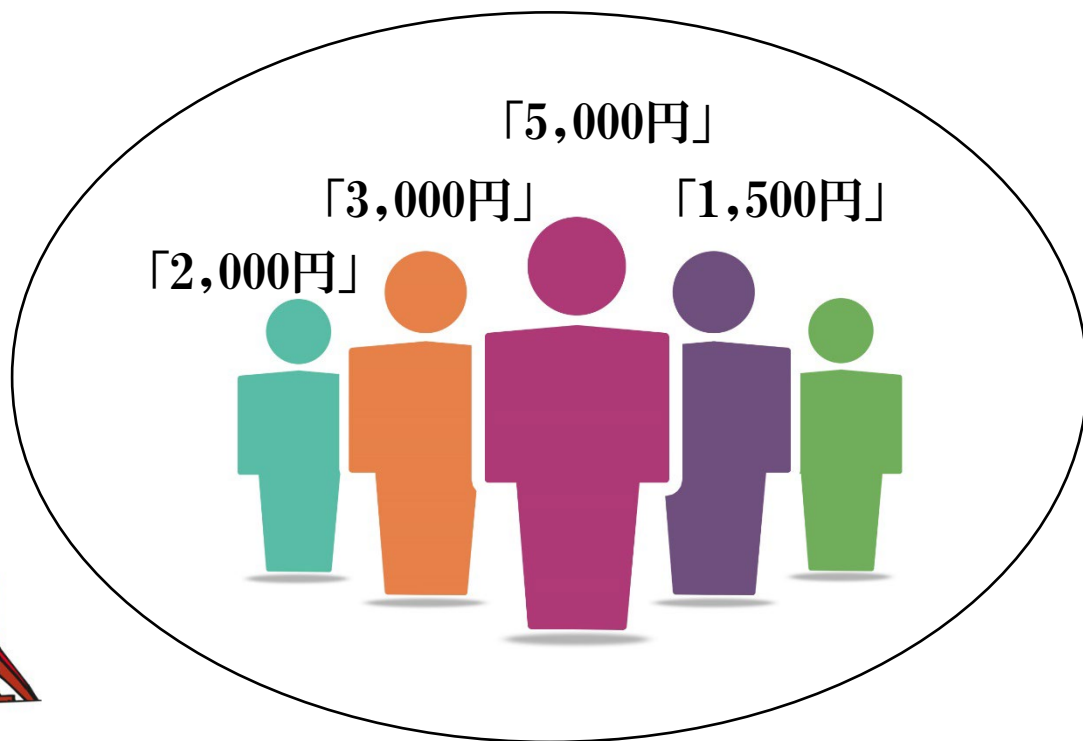
このうれしさを**支払意思額**という

社会（集団）での購入の場合

「なぜ，社会は橋を買うのか？（買うべきか？）」



値段： 1億円



合計： 1.5億円

費用便益分析が想定している状況

$$\begin{array}{ccc} 250 & -50 & 30 & -50 & 0 & -50 \\ = & 200 & = & -20 & = & -50 \end{array}$$



+40



+70

仮説的補償原理

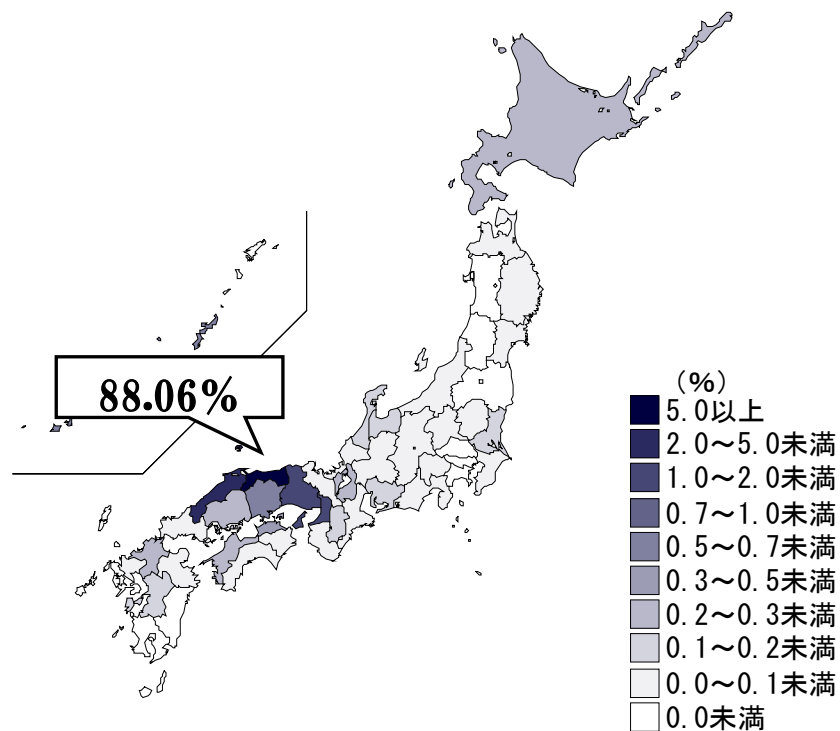
+90

+20

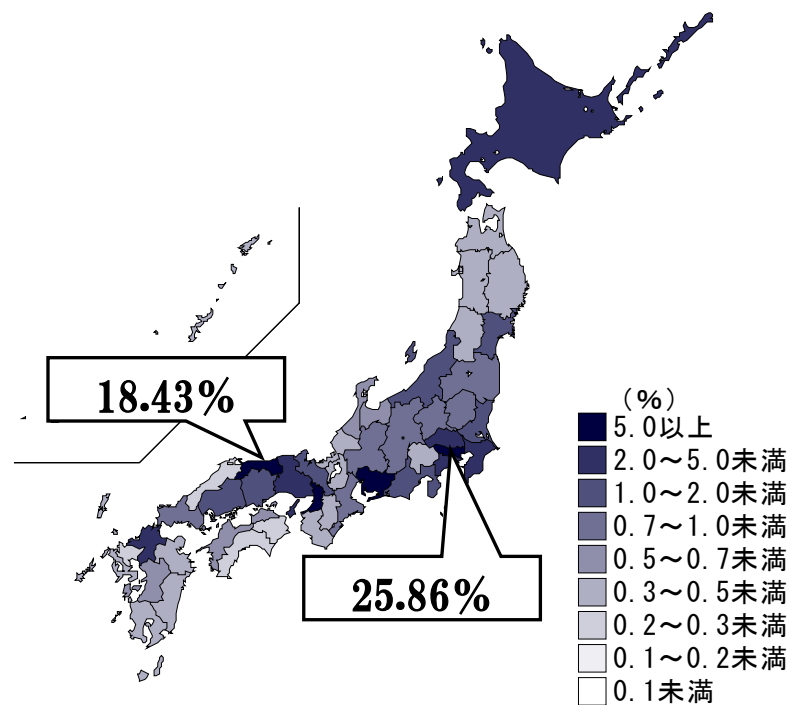
+20

便益帰着と費用負担構造

鳥取県に社会資本を実施した場合



便益帰着構造



費用負担構造

費用便益分析ですら、利己(個人)主義のみの社会では成立しえない。

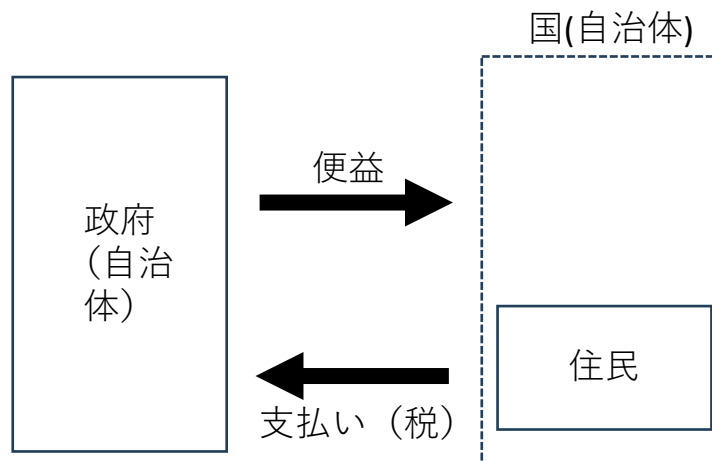
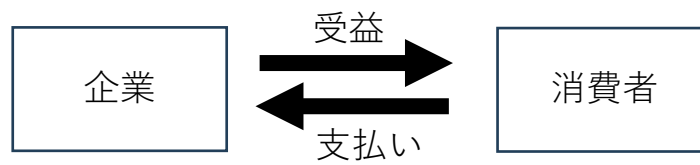
アダム・スミス：『道徳感情論』の冒頭第一部第一篇で

「人間がどんなに利己的なものと想定されうるにしても、明らかにかれの本性のなかには、いくつかの原理があって、それらは、かれに他の人びとの運不運に関心をもたせ、かれらの幸福を、それを見るという快樂のほかにはなにも、かれはそれからひきださないのに、かれにとって必要なものとするのである。この種類に属するのは、哀れみまたは同情であって、それは、われわれが他の人びとの悲惨を見たり、たいへんいきいきと心にえがかせられたりするときに、それにたいして感じる情動である。われわれがしばしば、他の人びとの悲しみから、悲しみをひきだすということは、それを証明するのになにも例をあげる必要がないほど、明白である。」（P 23）

「かれの身体にはいりこみ、ある程度かれになって、そこから、かれの諸感動についてのある観念を形成する」（P 25）

Sympathyの前提（同胞感情）

精神的共同体と制度的共同体の分離



地方と都市の社会的分断

自然は大陸から半島へ，半島からさらに島国へと移っている．旅する者は誰でも気づくであろうが，山は穏やかであり河は静かに流れ，気候は温かく空気は湿り，木は緑に滴り花は色を競っている．しかも海は国を守り，歴史は外から乱されず，人は悦び心は楽しんでいる．この国においてほど美に楽しむ心の余裕を有った民族はないであろう．

「茶と美」 柳宗悦